鹿病防第４４号
令和５年３月13日

各関係機関の長　殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和４年度技術情報第15号（カンキツの発芽期防除）について（送付）

カンキツそうか病やかいよう病の越冬病斑確認ほ場が多くみられます。これらの病害は発芽前～発芽期の防除が重要ですが，本年は発芽が早まることが予想されます。生育状況をよく観察し，防除適期を逸しないよう努めてください。

なお，本情報は，病害虫防除所ホームページ（www.jppn.ne.jp/kagoshima）にも掲載しています。

令和４年度技術情報第15号

１　対象病害虫　カンキツそうか病　*Elsinoe fawcettii* Bitancourt & Jenkins
カンキツかいよう病　*Xanthomonas citri* subsp. *citri* (ex Hasse 1915) Gabriel, Kingsley, Hunter & Gottwald 1989

２　対象作物　カンキツ

３　発生状況等

（１）そうか病の越冬病斑確認ほ場率は38％（平年９％）と高かった（温州ミカン，３月調査）。

（２）かいよう病の越冬病斑確認ほ場率は80％（平年70％）と高かった（ナツミカン，３月調査）。

（３）２月以降，平年より気温が高く推移し，向こう１か月も高いと予報されているのため，発芽が早まることが予想される。

（４）本年と同様に発芽が早かった令和３年度は，そうか病の発生ほ場率は26％（平年６％）と高く，かいよう病は51％（平年37％）とやや高かった。

そうか病の葉，果実の病斑

４　防除上注意すべき事項

せん定が終わっていないほ場では罹病葉の除去に努め，伝染源となる越冬病斑量を少なくする。

（１）そうか病は，春葉への感染を防ぐため，生育状況をよく観察し発芽期の防除適期を逸しないよう努める。

（２）かいよう病は，菌密度が高くなると薬剤の効果が上がりにくいので発芽前・発芽期防除に重点を置き，春先の菌密度を低く抑える。